

特集 最近の医療における感染症対策と研究の進歩

2: 院内感染

行政の立場から

坂 東 淳

徳島県保健福祉部医療政策課医事企画担当

(平成16年10月25日受付)

(平成16年11月2日受理)

はじめに

院内感染対策は、安全な医療の提供を確保するためには、医療事故防止対策と共に必要不可欠なものの一つであり医療を受ける県民からの関心も高い。今回、行政の立場から取り組んでいる院内感染対策として、各医療機関における院内感染対策への支援や立入検査における指導内容を述べると共に、平成15年8月に県内7箇所開設された医療安全相談窓口に関民から寄せられた相談により、院内感染に対する県民の視線の一部を紹介する。

1. 国の対応

院内感染対策に係る研究は、昭和62年度に厚生科学研究のテーマとして「院内感染症の現状と対策に関する研究」等にて取り上げられており、国(現厚生労働省)では、これらの研究成果を踏まえ、平成3年6月に「医療施設における院内感染の防止について」として、医療機関への対策の周知及び積極的な取り組み推進を内容とした通知を各都道府県の衛生主管部(局)長あて発出した。同通知では、1)院内感染対策の意義、2)院内感染対策委員会、3)手指消毒、4)清掃、施設管理、5)滅菌、消毒について先に述べた研究報告の要旨が述べられている。

平成4年、千葉県内の病院で発生した100人を超えるMRSA集団感染は、マスコミにより大きく報道され社会問題化した。その後、行政の院内感染対策への取り組みは更に本格化した。

当時の厚生省では、平成5年1月に抗生物質の使用方法に関するガイドラインを策定するとともに、翌5年度から院内感染対策施設整備補助制度を設け、翌6年度からは同設備整備補助制度も設け、院内感染対策に積極的に取り組む医療機関を支援してきた。

これらの施策に加え、現在は、全国を複数のブロックに分割し、医療従事者の職種(医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師)に応じた研修を毎年実施し、各地域の医療機関への普及に寄与している。

しかしながら一方では、結核菌など様々な院内感染事例が発生、報告されており、院内での対策の徹底がより一層望まれる状況にあるため、厚生労働省では注意喚起を促す通知の発出を行ってきた。

また、診療報酬体系の中でも院内感染対策を評価すべき項目として位置付け、平成12年度改定からは、院内感染防止対策(対策の基準は別表1)が未実施の医療機関については、入院基本料から減算される仕組みを導入し取り組みの徹底を促している。

(別表1)

- ・院内感染対策委員会の設置及び定期的な開催
- ・定期的な「院内感染レポート」の作成及び院内感染対策委員会における活用体制の整備
- ・各病室への水道又は速乾式手洗い液等の消毒液の設置

2. 徳島県における院内感染対策

冒頭にも述べたとおり、院内感染対策は、安全な医療の提供を確保するために必要不可欠な課題であるとの認識から、本県においては、厚生労働省から発出される通知の周知を図るとともに、厚生労働省の補助事業を活用し、医療機関の施設・設備整備を支援してきた。

更に、平成6年度には徳島県MRSA対策マニュアルを作成し、医療機関への配布を行った。また、医療法に基づく立入検査においても、重要項目の一つとして院内感染対策を挙げ、その実態把握に務め必要に応じて医療機関の指導を行っている。

立入検査では、医療法施行規則に定められた人員基準及び施設基準に加え、診療録記録等の保管や医療事故防

止対策、災害時の避難態勢といったリスク管理まで幅広く状況把握を行っており、院内感染防止対策もこの中に含まれている。

院内感染対策は、１）院内感染症対策委員会の設置、２）感染症対策チーム（infection control team）の設置、３）院内感染対策マニュアルの策定及び改定状況、４）MRSA 感染患者の状況、５）病院内におけるセラチア菌感染患者の状況、６）病院内における結核感染患者の状況、７）SARS 対策に見る院内感染対策などの項目につき報告を求め、担当者からの聴き取りにより把握を行っている。

例えば、院内感染対策委員会の設置及び定期的な開催については、ほぼ100%の病院から実施しているとの報告があるが、その内容については患者の状況が十分に把握され詳細なレポートに基づく対策についての活発な議論が行われているところから、形式的なものに留まり議事録の記載もわずかなところまで、様々である。

また、抗生物質の使用について院内で指針を定めている例が少数に止まる一方、MRSA 等の検査が十分に行われていない病院もあるなど、防止対策のスタンスにもかなりの幅がある。

県では、院内感染対策委員会の活動状況について詳細な把握を行い、実質的な活動が行われているかどうかを確認すると共に、対策マニュアルに定められたルールが院内の運営実態と乖離していないか、また院内で検討された成果が、第一線で業務に従事する職員により共有されているか、実際の業務に反映されているか等についても確認を行い、不十分な場合には指導を行っている。

後述する医療安全相談窓口に寄せられる相談の中には、これらのルールの不徹底に対する不安から来る相談も含まれており、全ての従業者にとって守ることができるようなルールづくりが必要である。

そのためには対策マニュアルの継続的な見直しも含め、院内感染対策が院内での自発的な取り組み - 院内文化のような形で醸成されることが望ましいと考えている。

３．医療安全相談窓口に寄せられる院内感染関係事案

徳島県では、医療機関と患者の間の信頼関係構築の一助となることを目指して、平成15年8月から県内6保健所及び本庁（保健福祉部医療政策課）に医療安全相談窓口を設けている。開設以前から県に寄せられていたものも含め、平成15年度に寄せられた相談は180件に上り（開設後では140件）、これらから県民の医療に対する意識を垣間見ることができる。

近年、しばしば医療事故や院内感染事例が報道されることも影響してか、自らが受ける医療の安全性に対する関心も高く、院内感染に関する相談も、8月の窓口開設以降でも13件と、比較的多く寄せられている。

医療機関における院内感染対策や院内の清潔保持に関する不安を訴える内容が多く、具体的には、１）院内の感染対策への疑問に十分答えてくれない、２）医療従事者による病室への入退出時の手指消毒が徹底されていない、３）職員のマスク着用等の防止対策がない、４）チューブなどの再生使用に対する不安などが挙げられている。

また、これらの事例について、直接従事者に不安を訴えたものの十分な説明が得られず行政相談窓口の利用に至る事例もあり、患者サイドの不安を医療提供者サイドが十分に受け止められていない現状が伺える。

相談者の多くは、医療機関側の回答に満足しない例だけでなく、様々な理由から十分な説明を求めることができない状況にある場合も多い。しかしながら、自分や家族にとっての不安を解決したいという強い要望から、相談に至る例も多い。

患者（やその家族）の視線は、治療を受けている医療機関が院内感染対策について十分な説明を行っているかどうかや、医療機関における院内感染対策がスタッフを通じて十分体现されているかどうか、といった点に向けられており、こうした体制の不徹底は、患者と医療機関の信頼関係構築にも少なからず影響を及ぼす事が予想されるため、十分な留意が必要である。

The hospital infection control in the Tokushima Prefecture

Makoto Bando

Health and Welfare Department, Medical System Policy Division, The Tokushima Prefecture, Tokushima, Japan

SUMMARY

Hospital infection control is one of the most important measures to provide safe medical care, as well as prevention of medical accidents. In this paper, we introduce the support program of the Tokushima prefectural office for the measures against nosocomial infection of each medical facility, and also introduce some opinions of people in Tokushima Prefecture. The medical safety counseling service sections were established at seven places in Tokushima prefecture in August ,2003. Many people have consulted staffs about medical issues. The opinions of visitors of these sections are as follows. People have high interest in the issue of the hospital infection control. Many people want explanation of the measure against nosocomial infection of the medical facilities.

Key words : hospital infection control, nosocomial infection